校友時報

昭和51年7月21日
編集人兼発行所
秋田県能代市高塚2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

文化祭実行委員会
準備進行遅れぎみ
日程九月十八、九日に変更される

第十七回文化祭にむけて準備が始められた。文化祭テーマも「邂逅」と決まり役割分担も終えたが、H・Rデコの方針、予算の内訳など未定のまま二学期へ持ち越されることになった。今年度も文化祭テーマは大いにもめて二度の採決を要した。テーマを〆単なる言葉のあや〆という厳しい批判もあり、テーマの有無は今後も問題となるところだ。

文化祭を三月あとに控えて、六月十日に第一回文化祭実行委員会が開かれた。ここで委員長に佐藤弘行（三C）、副委員長に神馬建（二E）が決まった。また文化祭の組織、その企画・運営内容が説明され、今年度、新たに食堂部門が加えられた。これは昨年大忙しだったことからウェイター・ウェイトレスの手配をするものである。

文化祭テーマは、アンケートの結果一Cの桐越主税君の「邂逅」と決定した。テーマの有無が今年も問題となり、二度の採決にわたって結局、必要とするが十四クラス、不要が六クラス、その他一クラスとなった。一年生のクラスには「どうせ口転に終わるテーマなら無いほうがよい」という声もあり、「いまや文化祭テーマは単なる言葉のあやだ」という非難もなされた。今年もこれらの非難を避けられないものとなった。しかし、こうした中で三年生に文化祭テーマを必要としなかったクラスが多かったことは、最後の文化祭をできるだけ良ものに、という積極性がうかがわれる。

準備進行がやや遅れており、昨年度なら二学期中に決まっていた各H・Rデコの方針、予算の内訳など未定である。これについて、第六回実行委員会で顧問の藤原六郎先生が「今年は準備進行もやや遅れムードに欠けている。二学期に入ったらただちに委員が先頭となって全校のムードを盛り上げてもらいたい」と述べられた。

H・Rデコには、クギ・火気・土の使用が厳禁されており、かなりの制約が予想される。しかし、その分、アイデアを生かした能高独自のデコをやってもらいたいものである。

なお、日程は九月十八日（土）十九日（日）（翌日は代休）となった。予定の二十五、二十六日を一週間繰り上げたのはこの日、能代北高が文化祭を行なうため重ならないようにと考慮したものである。そのため、例年のように直前の創立記念日、秋分の日の連休を利用しての準備ができなくなり、前からの準備が必要であろう。

また、全校生徒から文化祭経費の一部にあてるため各一百円（プログラム代として）を二学期に入ると集めるとのことである。

説部

朝起きて学校に向く。時間割り通りの授業を受け、放課後は多少の疲労感を背負って帰宅。夜はいくらかの勉強、そして就寝。

考えてみると一般に高校生の一日とはいかにも単純なものであるといえる。しかもこれが毎日続くのであるから、時としてこのような日々の繰り返しが無意味なものに感じられるのは、むしろ当然のことかも知れない。こうした疑問が倦怠を生み、学園生活が陰気なムードで覆われてしまうこともしばしばあるようだ。

日常において習慣化してしまっていること、例えば変化のない決まりきった毎日の繰り返しなどに対して、無意味さを感じ倦怠に陥るというのは、必ずしも怠慢からだけとは言い切れない面もある。一日一日を意識的に生き、現在の自分に絶望感をなさを感じるからこそ疑問が湧き、倦怠するとも考えられるからだ。

挑戦する日々を

倦怠の原因はいろいろ考えられよう。しかしここで問題なのは、どのようにしてこの精神虚脱状態から抜け出すかということなのである。こうした無気力、無感動な状態が長く続けば、やはり健全な精神活動を害してしまうであろう。もし倦怠に陥った場合、まずどうやって倦怠の原因を考えようと努力するかどちらかであると思われる。いったいどの方向に進むべきなのか、一概には言い切れない。

しかし、われわれが高校生であることを考慮するならば、日々の生活に対して、常に建設的であることが望ましいのではないだろうか。いかにも人生を悟ったかのように、安易な妥協をしてしまったり、絶望から逃れようとやみくもに死を急いだりするよりは、常に前向きな姿勢で日々の生活に望むのが賢明ではないだろうか。

最近、わが校の勉学および部活動における成果は確実に向上している。学園生活にこのような雰囲気が生まれると、倦怠感などは自体から逃げ出してしまうものかもしれない。つまり一人一人が、何であれ、自分のやりたいこと、新しいことに挑戦してゆくことが倦怠感出の近道であるといえよう。

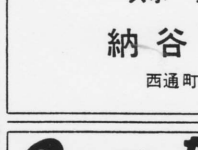
ともあれ、短い高校生活を倦怠なものという陰気なムードで憂うことのないようにしたいものだ。

書道
茂林友道君
総理大臣賞に輝く

去る三月二十三日に東京都麻布台において第二十八回全日本学生清書コンクールが催された。このコンクールは大学生以下の学生全般を対象としており、総出品数は一五、九一〇点に及ぶ盛大なものである。我が校では、茂林友道君（三D）がみごと、内閣総理大臣賞を受賞したのである。

写真で掲載した「寿考惟祺」という作品の他、楷行草隷の四書体あわせて二十五枚である。作品総評には「高校生として申し分のない力量の持ち主である」と述べられている。

茂林君の書道歴は約十五年で、この度の賞の他にも昭和十八、四十九、五十年度の第二十五、二十六、二十七回全日本学生清書コンクールで文部大臣奨励賞、昭和五十年度の第二十四回全日本学生書道展では連盟大賞、同じく昭和五十年度の全県高校総合美術展書道の部では推奨など、数々の賞を受賞している。現在、書道部の部長をしている茂林君は「これからも書けるだけ、習字を続けていきたい」「書道部の万にも力をいれたい」とこれからの抱負をのべていた。（受賞作品のひとつ）



非行化防止の一環として
下宿業者と父母の会

六月二十九日午後一時から本校会議室に於て、「下宿業者と父母の会」が開かれた。

最近の高校生活において、〆下宿生活の乱れ〆ということが生徒指導上の最重点事項として取り上げられているが、これは青年期の特質として社会への順応（友人形成の欲望）、家庭からの解放、自己主張などがあいまって非行へ走りやすいと考えられているためである。

このような現況にある時、下宿業者の立場、父母の立場、学校側の立場より話し合いにより、下宿生の健全な育成を期するという観点からとの会がもたれたのである。

出席者数は両方合せて十名と学校側から五名の計十五名と少なかったが、約二時間に渡って活発な話し合いが行なわれた。

大要は次の通りである。

一、下宿業者から学校、父母への要望

○下宿の方へ何って貰いたい。

○小遣い銭を余り多く持ったないでほしい。

○友人を余り多く下宿先へつれてきてほしくない。（二年生になると下宿への出入が激しくなる）

二、学校より業者、父母への要望

○電話等で密に連絡をとって貰いたい。（下宿先→学校、父母へ）

○生徒の監督等厳しくしてほしい

○異性の友人の来訪については特に注意を願いたい。（友人の来訪については、目に余るものがあれば注意を切望したい）

出席者から非常に有意義な会であったとの声が多く、十二月に一回目の会を開催するということで散会となったが、次回は最非多数の出席を望みたい。なお、七月中に各下宿先を訪問する予定である。（生徒指導部）

信太司君
特賞を獲得

六月十二日から二十日に開催された第十八回秋田県美術展覧会の彫刻部門に出品した三年B組の信太司君の作品がみごとに特賞の栄に輝いた。

この美術展は秋田魁新報社、秋田市及び県の教育委員会の主催で行なわれたもので、七つの部門にわかれていた。日本画、洋画、彫刻、工芸、写真の各部門は第一会場である秋田県立美術館に、書道商業美術の各部門は第二会場である本金デパートに展示された。

一般人も参加しているこの展覧会に我が校からは彫刻の部門に三点出品したが、高校生で特賞に入選したのは彼が初めてである。

信太君は特賞入選について次のように感想を述べている。「今回の作品は、これからの飛躍の土台となるような気がして、とてもうれしい」と。さらに今後の精進に期待したい。

三点

▼五輪史上最高といわれる総額十四億円（四千二百億円）を費やし、この七月十七日に開会される第二十一回オリンピックは、カナダのモントリオール市が主会場である。日本からも河野洋三団長以下役員・選手など一百六十八名が盛の期待をうけモントリオールへ向かった。「果して金メダルを幾つ獲得するか」が現在の日本国民の最大の関心事であろう。

▼回を追って一層大きく派手やかになってゆくこのオリンピックは一九八〇年のモスクワ大会においては二億ドル（六千億円）費やされるであろうといわれている。第十八回東京大会には約三十億ドルかけており、会を追って倍々に膨らんで現在に至ったのである。

▼オリンピックはこれまで、参加国数、参加者、土木工事などあらゆる面において史上最高をめざして開かれてきた。それに加えて自分らの都合だけで、大会の将来を考えない身勝手さが、史上最高を維持してきたのである。

▼オリンピックの目標は、「より高く、より速く、より強く」である。しかし優秀な人材をえり抜き、金メダル獲得ロボットを造っているソ連などにはやや過ぎの感もある。それに比較すると古代オリンピックは、まことにつつましやかなものである。

▼古代オリンピックは千数百年前にギリシア人によって行なわれたものである。これは毎年流行した悪疫封じのため、守護神ゼウスの祭典を盛大に行なった際の奉納競技であった。競技種目は最初短距離競争のみで、優勝者にはオリーブの枝で編んだ冠が授与されるだけであった。しかしこの古代オリンピックは末期において見世物化し、賛美、職業選手が横行して千二百年あまり続いて結局は滅んだ。近代オリンピックは第一回アテネ大会（一八九六年）からまだ八十年の歴史よりないが、もう堕落の道を歩んでいるようだ。

学生のみせ
ホムラヤ　畠町
2—5535

体力づくりなら……
スポーツ用品なら……
納谷スポーツ
西通町　TEL 4—4043　2—3429

二人（お客様と店）で楽しいショッピング
イシヤマ
能代店　畠町　☎②2349㈹

DPE　光の季節です！
カメラを持って飛び出そう
カメラとカラーの店
三羊堂
能代市畠町新銀座　☎2-0533

2分間・写真　カメラの10か月払い
第一商店会チケット
つサオカメラ
能代・畠町・坂上　TEL (2) 5703
支店　カメラのさくら堂
能代市柳町11—27
TEL(2) 6039

皮膚病・男性化粧品
みどり薬局
畠町　TEL 2—3531

メガネの　カモヤ
能代市畠町　TEL (01855) 4-1060